

FAX 通信

2005年9月1日発行 No.01-07

From KOTANI

ホームページ <http://www.kotanikk.com>

シール概論-別冊 (7)

1. シール用ゴムに関する用語(続き) (ゴムの特性に関する用語)

- **耐候性**：自然環境に打ち、主として日光、雨雪、温度及び湿度による劣化に対する抵抗性。特に、特に、耐候性に打ち、日光、温度及び湿度による劣化に対する抵抗性を耐光性と言います。試験としては、屋外暴露試験と人工暴露試験の2種類があります。

参考—規格 JIS K 6266 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムの耐候性試験方法

- **耐オゾン性**：人工的に発生させた一定濃度のオゾンを含む空気中に、静的な引張ひずみ与えた試験片を静的に暴露したときの、き裂の状態、き裂発生までの時間又はき裂を発生させない最大引張ひずみを評価して、ゴムの耐オゾン性を定めます。また動的な引張ひずみを与えて試験を行う動的オゾン老化試験方法もあります。一般的には、静的試験方法が多いようです。

試験方法でもお分かりのように、必ず試験片に引張ひずみを与える点です、ひずみの大きさオゾン濃度により変わることです。

参考—規格 JIS K 6259 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—耐オゾン性の求め方

- **耐屈曲性**：ゴムがダイアフラムやブラダ(ゴムの袋)の用途などで利用される場合、繰り返しゴムが変形される場合の評価として、この耐屈曲性が良いか悪いか寿命に大きく影響いたします。一般にはデマチャ屈曲試験機により屈曲き裂発生及び屈曲き裂成長を評価して、優劣を判断します。

参考—規格 JIS K 6259 加硫ゴム及び熱可塑性ゴムのデマチャ屈曲き裂試験方法

- **耐摩耗特性**；シールなどでは、実際に運動用に用いられる場合には、耐摩耗性が重要な特性となります。しかしな

がら、多くの要因が含まれるため、ここに示す JIS による試験方法も参考となりますが、実際には、実機により評価が優先されます。(ゴム材料の選定などのためには、いちいち実機の試験が時間を要しますので、ゴム材料の選定のためには JIS の試験も必要です。)

従って、シールメーカーでは、独自の試験機を作成して、耐摩耗性の評価方法を確定しているようです。

参考—JIS K 6264 加硫ゴムの摩耗試験方法、この試験にはウィリアム、アクロン、ランボーン、ピコ、DIN、テーバ摩耗試験方法が定められています。

- **電気特性**：ゴムの導電性を把握する必要がある場合があります。一般的にゴム材料は絶縁体ですが、特殊な充填剤などにより、導電性を付与することが可能です。

参考—規格 JIS K 6271 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—体積抵抗率及び表面抵抗率の求め方 (続く)

「テスニット」ノンアスベストジョイントシート
弊社は「DONIT TESNIT」社のノンアスベストジョイントを取扱っています。

主製品についての紹介

BA-R：アラミド繊維+NBR/SBR に補強金網入です。

特徴：重荷重用

用途：自動車、薬品、造船

標準シートサイズ

大きさ： 1500×1500mm

厚さ： 0.5, 0.8, 1.0, 1.5, 2.0, 3.0mm

カタログや技術資料は、ご要求がございましたら下記にご一報ください。

コタニ株式会社

本社：神戸市中央区浜辺通 2-1-30

TEL:078-251-5300 FAX:078-252-1158

FAX 通信の記事についてのご意見や質問は次のメールアドレスに連絡ください。

knemoto@suite.plala.or.jp (根本)